浜松医科大学
国際交流後援会誌

第 19 号（令和５年 11 月発行）

ご　挨　拶

浜松医科大学国際交流後援会　理事長　**海野　直樹**

浜松医科大学国際交流後援会は浜松医科大学の国際交流の現況をより多く知っていただくように後援会誌を毎年発行しています。

2019 年から始まった新型コロナウイルス（COVID-19）感染の世界的蔓延は、2022 年 11 月には日本政府による COVID-19 の水際対策が大幅に緩和され、2023 年 5 月には COVID-19 の感染症法上の位置づけが 5 類に移行、以後、国際交流は元に戻りつつあります。こうした状況での浜松医科大学における令和 4 年度国際交流事業の活動実績の概要をご報告いたします。

まず、外国人留学生への奨学事業として、令和 4 年度は新たな入学者を含む私費外国人留学生 34 名に対し、勉学に専念できるように合計 29,500 千円を奨学金として給付しました。一方で、短期留学として国際交流協定校から、2023 年 1 月に韓国の慶北大学校医科大学から 3 人、3 月にはドイツのデュッセルドルフ大学から 1 人の交換留学生を受入れ、日本で安心して勉学に打ち込めるように給付金を支援いたしました。

また、グローバル人材育成事業としての海外留学支援については、令和 4 年度は浜松医科大学学生が海外臨床実習に行くことは叶いませんでしたが、国際化推進センターでは、オンラインによる事業として、外国人研究者の指導を受けながら静岡大学学生及び浜松医科大学医学科学生が英語の学術論文を読解し発表する Journal Club の実施、医学科学生が自由に参加できる医学英語のグループ学習により、医学英語を学ぶ機会を提供しました。令和 4 年度 IFMSA での臨床実習留学が中止になった学生及び令和 5 年度海外留学参加予定の学生に英語での症例発表の実技指導を実施いたしました。さらに本学課外活動団体 HOPE との共催による日本人学生と留学生との交流を深め英語でのコミュニケーションをとる力を伸ばすことを目的とした English Café を対面開催しています。外国人留学生実地研修旅行については、日帰りで、静岡市内限定で実施することができました。

そして、令和 5 年度にはいよいよ本学学生の

海外留学が可能となり、海外留学報告会も４年ぶりに再開できました。また、看護学科の国際化として令和６年度から国際交流協定校の米国ネブラスカ大学医療センターでの国際看護実習を実施する予定です。

その他の事業につきましては、６ページ以降の令和４年度国際交流事業報告をご覧いただければ幸いです。

本稿執筆の令和５年９月上旬時点で、日本、韓国、米国への中国人旅行者の団体旅行は2020年１月に停止して以降、３年半ぶりの再開となっており、グローバルな交流が再び活発になったことを実感しております。結びになりますが、浜松医科大学国際交流事業につきましては、引き続き皆様のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

＜令和４年10月31日(月)
浜松医科大学大学院博士課程３年次の留学生による研究報告会＞

ドイツ留学がもたらしてくれたもの

浜松医科大学　光尖端医学教育研究センター　フォトニクス医学研究部
光神経解剖学研究室　教授　**山岸　覚**

近年、日本の科学研究力・国際競争力が低下しているということが囁かれており、また、若者の留学希望者数も低下していると話を聞きます。皆様はこの両者に関係があると思われるでしょうか？本稿では私の昔話にお付き合い頂き、この問いかけについても私なりに考察したいと思います。

私は大学生の頃から海外留学したいと思っていました。理由は単純で、英語が苦手だったからです。研究者の道を進むことを決意したものの、大学院では英語論文の筆が進まず大変苦労しました。苦労した割には稚拙なもので、このままでは研究者として生きていけないと思い、早く留学したいとずっと思っておりました。ポスドクを大阪大学で１年半過ごしたのち、千葉大学医学部で助手として採用されました。教授には早く留学に行きたいと伝え、留学先も紹介して頂きました。そのお陰でトントン拍子に留学先がすぐに決まり、半年で助手を辞職し2004年の５月から、ドイツ･ミュンヘンにあるMax-Planck研究所に行くことに決まりました。

ドイツでは割と皆がリラックスして研究していることに驚きました。日本ではプレッシャーに追われ、日夜馬車馬のように働いていましたが、多くの人が10時に来て18時に帰る姿を見て、こんなに堂々と早く帰って良いんだと驚きました。研究者はマラソンのような職業なので、いかに効率よく長距離を走るかということを考えるようになりました。現地で次女が産まれた後は特に皆から早く帰れと言われるようになりました。

留学時のトラブルは書ききれないくらい本当に多くあり、日本がいかに恵まれているかということに気付かされました。いくつか紹介しますと、①絨毯を購入した際、配達料＋チップを払っても私の住む４階ではなく１階に放置されました。しかもお釣りがないと言われ、50ユーロも払ったのに。彼の言い訳としては「僕は運転手であり、配達人ではない」とのこと。そもそも配達日に届かないことも多く、何回もこの手のトラブルで再配達をお願いしました。②パリに旅行した際、現地の人しか買えない１週間乗り放題の電車チケットを買ってあげるよと言われ100ユーロ渡したところ、15ユーロ分の回数券を渡されました。③渡独後すぐに携帯を使いたかったので月額料金の高い２年間縛りの電話会社と契約してしまい、ずっと解約したいと思っていました。プラン変更可能な１年間を待って安いプランに変更したところ、そこから再度２年縛りがスタートしました。これには契約変更を手伝ってくれたドイツ人も驚いていました。④家族４人でスペイン旅行した際、代理店を通して飛行機チケットを取ったのですが、妻のバルセロナ→マドリッド便のｅチケットだけが無効になっており、現地で買い直す必要がありました。帰国後文句を言い続けたのですが、結局払い戻される前に会社が倒産しました。⑤帰国時に車をネット掲示板で売りに出したところ運良くすぐに売れたのですが、突然購入をキャンセルしたいと言われました。売値5000ユーロのうちキャンセル料として交渉して手数料1000ユーロを頂き、4000ユーロを返金したのですが、私の銀行口座に一度入った5000ユーロが小切手不渡りとなり、１ヶ月後に口座から消えました。しかも不渡りの手数料まで払わされました。

また、これは詐欺ではありませんが、次女の出産に際して、陣痛間隔８分で病院に行ったところ、まだ産まれそうにないから帰れと言われ追い返されました。帰宅しすぐに５分間隔となり病院に再

度行きました。到着１時間後に出産したので、危うく間に合わないところでした。しかも、出産１時間後に医師から帰宅するよう促されました。妻もぐったりしており、なんとか粘って４日間入院させてもらいました。この１年半後、次女が尿路感染症で１週間入院した際、8000 ユーロ（当時 100 万円）の請求書が届きました。保険でカバーされたので難を逃れましたが、もしも２回目同じことが起きて持病とみなされた場合はカバーされない可能性もあります。帰国後、静岡では小児は１回 500 円しか掛かりませんので、なんて素晴らしいシステムだと感動しました。他にもいろいろと書きたいことはありますが、いずれも今となっては良い経験 (?) です。

一方で素晴らしい仲間にも恵まれました。みんな困っている時には本当に親身になってくれて、VISA の更新にはわざわざ一緒に来てくれたりとか、娘の急性アレルギーで救急に行く際に車を飛ばしてくれたりとか、私の車のバッテリーが上がった際には、その都度我が家まで来てくれたりとか、本当に何度も助けてもらいました。近所のイタリア人には放課後娘達を預かってもらったりもしていました。かけがえのない人達ばかりで、６年半の留学を終えた後も、渡独の際はもちろん会いに行きますし、家に泊めてもらったり、逆に日本に遊びに来た時は我が家に泊まってもらったりしています。

さて、昔話が長くなりましたが冒頭の問いに戻りますと、私は研究力の低下と留学の低下は大いに関連があるのではないかと考えています。歴史的に見ましても大陸文化を知るというのはとても大切なことです。研究というのは手を動かすだけでは成し遂げることはできず、共同研究として多くの人に助けてもらう必要があります。もちろん国内でも十分に素晴らしい研究は可能なのですが、歴史的にサイエンスが育まれた土地に行き、その空気を吸うことでしか得られない経験も多くあります。日本では考えられないようなトラブルも多くあるかもしれませんが、臨機応変に対応する能力が身に付きます。コロナ禍でオンライン会議など便利なツールも発達しましたが、若い人たちには是非冒険してもらい、苦い経験も糧にして、将来、花を咲かせて果実を実らせていただけたらと思います。

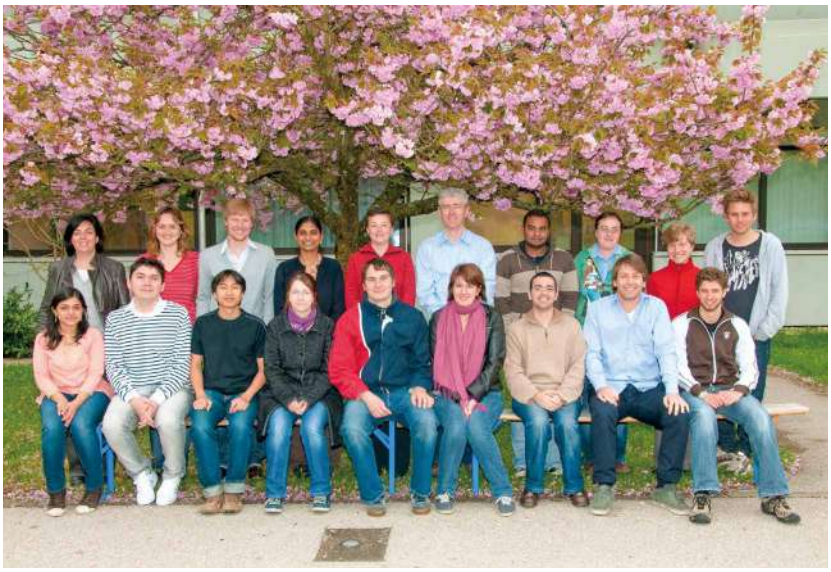


写真１：研究室のメンバー（2010 年当時）。スペイン、ロシア、ポルトガル、インドなど世界各地から研究者が集まっています。筆者は前列左から３番目。

写真２：ボスの Rüdiger Klein（2018 年）。Ringberg 城で開催された研究会では、彼の 60 歳を祝う仮装パーティも開かれました。

浜松医科大学国際交流後援会役員等名簿

※敬称略　　（令和５年 10 月現在）

	氏　名	職　名　等
名誉理事長	小　林　隆　夫	浜松医療センター 名誉院長
名 誉 理 事	市　山　　新	浜松医科大学 名誉教授
〃	山　口　貴　司	山口ハート国際クリニック 元院長

	氏　名	職　名　等
理　事　長	海　野　直　樹	浜松医療センター　院長　浜松医科大学特定教授
副 理 事 長	滝　浪　　實	一般社団法人浜松市医師会 会長
理　　事	中　村　捷　二	株式会社サーラコーポレーション　相談役
〃	鈴　木　　靖	遠州信用金庫 理事長
〃	畑　　すみ子	国際ソロプチミスト浜松 会長
〃	内　藤　佳　典	浜松医科大学後援会 会長
〃	青　木　善　治	社会福祉法人聖隷福祉事業団 理事長
〃	滝　浪　　實	浜松医科大学同窓会松門会 会長
〃	山　下　寛　奈	浜松医科大学看護学科同窓会 会長
〃	山　口　智　之	医療法人社団泰誠会大脇産婦人科医院　理事長
〃	小　出　幸　夫	医療法人社団一穂会西山ウエルケア　施設長

令和4年度 国際交流事業報告

■留学生支援事業

・博士課程大学院留学生への奨学金給付、私費外国人留学生 34 名に奨学金給付

国　名	人　数
中　国	18 名
ベトナム	6 名
バングラデシュ	5 名
ルワンダ	2 名
インド	1 名
スーダン	1 名
パキスタン	1 名
計	34 名

・国際交流協定校からの交換留学生受入れ支援

慶北大学校医科大学（韓国）　3 名　合計　13.8 万円

令和 5 年 1 月 16 日～ 2 月 10 日（4 週間）	臨床実習（呼吸器内科）	5 万円× 1 名
令和 5 年 1 月 16 日～ 2 月 10 日（4 週間）	臨床実習（眼科）	5 万円× 1 名
令和 5 年 1 月 23 日～ 2 月 10 日（3 週間）	臨床実習（小児科）	3.8 万円× 1 名

デュッセルドルフ大学（ドイツ）　1 名　5 万円

令和 5 年 2 月 20 日～ 3 月 10 日（3 週間）	臨床実習（第三内科）	5 万円× 1 名
令和 5 年 3 月 13 日～ 3 月 31 日（3 週間）	臨床実習（第一内科）	

■国際交流事業

・留学生研究報告会（令和 4 年 10 月 31 日）

例年の新入留学生のウェルカムイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学院留学生 3 年生 6 名、4 年生 1 名による、研究報告会のみを実施した。

参加人数：46 名

■国際交流事業

・留学生インタビュー（令和４年９月８日浜松医科大学オンデマンドへ掲載）

各国の在学留学生へ英語でインタビューを実施した。撮影したインタビューは本学 Web 動画サイト「浜松医科大学オンデマンド」へ掲載した。

バングラデシュ、ベトナム、ルワンダ、中国から各１名

・Journal Clubへの参加（令和４年８月３日、12 月７日）

光創起イノベーション研究拠点が主催する、外国人研究者の指導を受けながら、静岡大学・浜松医科大学の学生が英語の学術論文を読解し発表する会。

＜浜松医科大学参加学生＞

（８月３日）医学科４年１名、医学科３年１名　（12 月７日）医学科４年２名

・さくらサイエンスプログラム（令和４年 12 月５日）

インドネシアの高校生を静岡県に招聘する「さくらサイエンスプログラム」が、静岡県の特徴の一つである「健康長寿」、「健康」、「医療」分野における本県の最新の研究や技術・取組を学ぶため、西ジャワ州から選抜された高校生８名が県内の大学や研究機関を訪問した。

本学では、子どものこころの発達研究センター　千住 淳センター長がこどもの脳の発達についてオンライン講義を実施し、生徒達から熱心な質問を受けた。

■国際交流事業

・**外国人留学生実地研修旅行**（令和４年 11 月２日、日帰り）
外国人留学生が日本の文化、歴史、風土、産業等の見聞を広め、日本をより深く理解してもらうとともに、外国人留学生・教職員相互の理解や親睦を深めることを目的として行った。今回は日程を日帰りで静岡県内に縮小し感染対策を行った上で３年ぶりに実施した。
　静岡市駿府匠宿で伝統工芸の粉貝箸作りの体験
　名勝地日本平散策、久能山東照宮の参拝
　参加者：外国人留学生・研究者等 26 名、引率の教職員６名

・**国際交流のつどい**（令和４年３月）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催は中止とし、例年会場で配布している「卒業予定・新入留学生のことば」を作成し、浜松医科大学国際交流後援会理事の方々、地域の方々、その他国際交流関係者へ送付した。

■グローバル人材育成事業

・**医学英語のグループ学習を実施**（令和４年４月～令和５年２月）
コロナ禍で海外の医療機関等での臨床実習は叶わないため、米国医師免許試験 (USMLE) 対策の学習モジュールを活用した医学英語のグループ学習を毎週１回オンラインで開催した。
実施回数：32 回　　参加者数：24 名

・**English Café の開催**（令和４年５月～令和５年２月）
本学課外活動団体の HOPE と共催し、学生が留学生との交流を深め、英語でのコミュニケーション力を伸ばすことを目的とした交流会を、飲食を伴わず感染防止対策を行った上で実施した。
実施回数：９回

■令和５年度９月末までの事業報告

◆ 私費外国人留学生　30 名に奨学金給付　月額 10 万円
　内訳：中国 13、バングラデシュ 7、ベトナム 5、ルワンダ 2、インド 1、パキスタン 2

◆ 学術交流協定校からの特別聴講学生、特別研究学生（短期留学生）受入支援
　令和 5 年 8 月 28 日～ 9 月 22 日　　5 週間　ドイツ 臨床実習（第一内科、第三内科）5 万円
　令和 5 年 9 月 4 日～ 9 月 19 日 2 週間　ドイツ 臨床実習（眼科）2.5 万円

◆ 留学生インタビュー
　各国の在学留学生へ英語でインタビューを実施し、動画撮影し、本学 Web 動画サイト「浜松医科大学オンデマンド」へ掲載予定　医学科：韓国 1 名、大学院生：中国 1 名、バングラデシュ 1 名、ベトナム 1 名

◆ Journal Club への参加
　令和 5 年 8 月 30 日　医学科 4 年 1 名、医学科 2 年 1 名参加

◆ 医学英語のグループ学習を実施
　実施回数　14 回　参加学生数　5 名

◆ English Café の開催
　実施回数　5 回

◆ 本学学生の海外留学支援
　● 学術交流協定校等での海外臨床実習 9 名　合計 72 万円　（1 人 8 万円を支援）
　● 国際サービスラーニング 3 名　合計 24 万円　（1 人 8 万円を支援）
　● ハワイ大学
　　Workshop for Student Summer Medical Education Institute　3 名　合計 15 万円（1 人 5 万円を支援）

◆ 令和 5 年度海外留学報告会　令和 5 年 6 月 29 日（木）
　報告者：13 名
　参加者：発表者を含む学部学生 64 名、大学院生 1 名、来賓役員 3 名、教職員 14 名

■看護学科の国際化

国際看護演習（自由科目・1 単位）
University of Nebraska Medical Center (UNMC)
College of Nursing, Immersion Program for HUSM
令和 6 年度から本学の国際交流協定校のネブラスカ大学医療センター（UNMC）での国際看護演習を実施予定（現在準備中）

UNMC College of Nursing の看護学士プログラムは、U.S. News & World Report の 2022-23 年ベストカレッジレポートにおいて、681 の看護プログラム中、15 位にランクインしている。
開講年次：4 年次後期
募集人数：4 名（選考あり）
研修内容：
- 病院及び地域における臨床実習（シャドーイング）
- 学部授業への参加
- 学生同士の交流プログラム
- オマハ市の文化を知るプログラム

＜留学生ウエルカムイベントにて＞

留学生の言葉

大学院医学系研究科博士課程４年
細胞分子解剖学講座
（バングラデシュ出身）Zinat Tamannaa

私は Zinat Tamannaa と申します。浜松医科大学で瀬藤光利教授のご指導のもと、細胞分子解剖学講座に所属する博士課程４年生です。バングラデシュの Rajshahi 大学にて、生化学・分子生物学科で理学士 (B.Sc) および理学修士 (M.Sc) の学位を取得しました。そして私は長年の夢を叶えるため、日本の浜松医科大学へやってきました。

ここでの研究中、私は、液体クロマトグラフィー質量分析法や脱着エレクトロスプレーイオン化質量分析法などの質量分析技術を使用して、老化研究に関連する生体分子を特定し視覚化することに魅了されています。 質量分析技術は、科学者が医学研究と人間の健康におけるその潜在的な役割を開発するのに役立ちます。現在、質量分析は昆虫生物学に関する貴重な洞察を提供するなど、昆虫研究において重要な役割を果たしています。京都大学との共同研究は、シロアリの寿命のメカニズムを解明する素晴らしい機会となりました。 博士課程の在学中、私は共著者として５つの論文を発表しており、現在他の研究結果も出版されるところです。

日本は、技術、経済、教育、インフラ、社会開発などのさまざまな分野で目覚ましい成果を上げている先進国です。私にとって研究面でも自然の美しさを楽しめる面においても、日本へ来たことは本当に満足できる選択でした。富士山の景色はとても感動的です。素晴らしい場所なので友人と何シーズンも訪れました。浜松市内では、フラワーパーク、フルーツパーク、お城、洞窟、浜名湖、弁天島海水浴場、中田島砂丘などへ行きました。春の美しい桜や秋の紅葉の情景は決して忘れることはないでしょう。また、日出ずる国の日の出を眺めたこともいつまでも私の心に残ることでしょう。新幹線での東京への旅はとても刺激的でわくわくしました。時が経つにつれ、私は日本食が大好きになりました。私の好きな料理は、鍋料理、うどん、寿司、おにぎり、そして味噌汁です。“ゆかた”はとても魅力的で、お祭りの時に着るのが好きです。異なる文化の国から来たにもかかわらず、日本の方々がとても親切にしてくださるおかげで助けられています。

浜松医科大学が国際交流奨学金を提供してくださったおかげで、私の日常生活はより快適なものになりました。浜松医科大学のご支援に心より感謝申し上げます。この研究を通じて、指導監督である瀬藤光利教授のご指導、建設的な見解や貴重なご提言に感謝いたします。卒業後はバングラデシュに戻る予定です。そして身につけた技術と基礎知識を用い、大学で老化についての専門家として研究を続けたいと考えています。浜松医科大学の一員であることをとても誇りに思います。

＜夫と白糸の滝にて＞

国際交流協定校の交換留学生より

氏　名 Aykhan Mikayilov さん　**在籍大学** デュッセルドルフ大学（ドイツ）

受入講座 第三内科（令和５年２月 20 日～３月 10 日）、第一内科（令和５年３月 13 日～ 31 日）

１. 奨学金受給期間中の学習についての報告

第三内科では循環器内科を担当し、担当患者について学び、教授との回診では、患者さんのところに訪れ、聴診を行う機会がありました。第一内科では毎週ローテーションで別の科に移るため、さまざまな診療科を見ることができました。教授とともに、または単独で患者さんのところに訪問することもでき、貴重な経験になりました。循環器内科では、心臓カテーテル検査、消化器内科では上部消化管内視鏡検査などのシミュレーションにも参加できて良かったです。言葉の壁があるにもかかわらず、皆さんが私とコミュニケーションを取り、説明しようとしてくれたことに非常に感謝しています。

２. 日本と浜松医科大学についての印象

日本での私の経験は比類のない素晴らしいものになりました。日本は本当に特別な国であり、それを直接体験できたことに感謝しています。日本にいる間ずっと私は日本の文化にどっぷりと浸かり、新しい人々に出会い、新たな友情を築くことができました。先生には美味しい日本料理を食べに連れて行ってもらいました。日本滞在中に出会った人々のもてなしと優しさにとても感謝しています。

氏　名 Lee Hee Dong さん　**在籍大学** 慶北大学校医科大学（韓国）

受入講座 眼科学（令和５年１月 16 日～２月 10 日）

１. 奨学金受給期間中の学習についての報告

この４週間で私は、眼科学、日本医療の慣例、日本の文化や伝統について多くのことを学びました。第一に、眼科学の基本を再確認する良い機会となりました。さらに眼科手術のさまざまな部分について詳しく学びました。特にウェットラボでの豚の目の白内障手術の経験はとても思い出に残り、白内障手術に関する知識が記憶に深く刻まれました。白内障や斜視の手術に関するさまざまな手順の詳細は非常に興味深く、眼科学に対する私の情熱に火をつけました。

２. 日本と浜松医科大学についての印象

私は週末や自由時間のほとんどを地元の浜松エリアの探索や、この周辺のさまざまなスポットの観光に費やしました。特に浜松市楽器博物館が興味深かったです。日本で出会った人たちは皆さんフレンドリーで親切で、日本語が理解できない私を熱心に助けてくれました。日本語が話せたら、もっと浜松のことを学び体験できたのではないかと思います。

氏　名 Park Kyungbin さん　**在籍大学** 慶北大学校医科大学（韓国）

受入講座 第二内科（令和５年１月 16 日～２月 10 日）

１. 奨学金受給期間中の学習についての報告

私は呼吸器内科で臨床実習を行いました。毎週一人の患者さんを割り当てられ、その患者さんがどのような診断を受け、治療法はどうすべきかを検討する必要がありました。

実習の２週目と３週目には、患者さんについてのプレゼンを教授に行いました。このプレゼンが週の主な課題でした。さらに、気管支鏡検査を８回観察させてもらいました。また、呼吸器内科は第二内科に属しているため、内分泌や肝臓内科のレクチャーやカンファレンスにも参加しました。

２. 日本と浜松医科大学についての印象

みなさん親切でした。私は日本語がほとんどできないにもかかわらず、よく助けてくれて環境に適応できるよう支援してくれました。

氏　名 Cho Minguk さん　**在籍大学** 慶北大学校医科大学（韓国）

受入講座 小児科学（令和５年１月 23 日～２月 10 日）

１. 奨学金受給期間中の学習についての報告

私は浜松医科大学 (HUSM) の小児科学で、３週間勉強と実習をしました。１・２名の HUSM 医学生とともに小児科の各部門（免疫・循環器・NICU・神経・血液）で実習を行いました。私はたいてい教員と一緒に患者さんを見回り、患者さんについて話をしていました。また、外来患者さんの診察や検査も立ち会いました。水曜日のカンファレンスの時間に２回プレゼンテーションを行いました。１つめのテーマは“新しいスタイルの韓国料理”です。サムギョプサルやビビンバなどの有名な韓国料理は多くの日本人が知っています。そこで他のおいしい韓国料理も紹介したいと思い、このテーマでプレゼンテーションをしました。２つめのテーマは“韓国の医学生の生活”についてです。HUSM の学生たちと話していると、韓国の学校生活とは違うと感じます。そのため生活について紹介したいと思いました。教員も学生も皆さん良い反応をしてくれたので、無事にプレゼンテーションを終えることができました。

２. 日本と浜松医科大学についての印象

多くの日本人のおかげで HUSM では本当に楽しく過ごし、忘れられない思い出になりました。病院の教授や先生方は皆さん親切で、私は日本語があまり得意でないにもかかわらず多くのことを教え、見せようとしてくれました。いつも先生方が私に笑顔で優しく接してくれるので、HUSM の実習生活にうまく順応できました。

過去卒業留学生からのお便り

沖縄科学技術大学院大学（OIST）
博士研究員
Md. Hazrat Belal, PhD

バングラデシュから日本への旅：浜松医科大での卓越した研究生活

私はバングラデシュの大学院で学んだ経験がありました。人間の疾患の病理メカニズムを解明する研究をしたいという志を胸に、2017 年 4 月 25 日、中部国際空港に降り立ったのが初めての来日でした。浜松西 I.C. バス停に到着すると、浜松医科大学医化学講座長の才津浩智教授が私を迎えに来てくださっていました。私は驚くとともに、教授の気取りのない様子に心を打たれました。日本そして日本人に対し敬意を感じました。まるで私には後見人と今後の研究の指導者が一緒にいてくれるようなそんな安心感を得たのです。

私の博士号指導教員である才津浩智教授（左）、研究室仲間の Md. Monirul Islam さん（中央）、そして私。2019 年の研究成果発表会に出席。

With my Ph.D. supervisor, Professor Dr. Hirotomo Saitsu (from the left), my lab mate Monirul Islam (middle), and me attending the HUSM symposium in 2019.

浜松医科大学での生活は 2017 年 4 月 26 日から始まり、私は医化学講座で紹介され歓迎していただきました。私はエキスパートの方々のサポートを受けながら、大学の研究室、図書館、動物実験施設での学習と研究の旅を始めました。当時講座の助教であった青戸一司先生が研究指導について下さったことは幸いでした。私たちはゆっくりと着実に研究を進めていきました。才津教授にとって私は初めての博士課程の学生だったので、研究手法や研究に対する考え方などをとても丁寧に教えていただきました。才津教授から直接学ぶことができて本当に幸運でした。私たちは新しいアイデアのブレインストーミングを行い、研究や論文掲載のために取り組むなど多くの時間をともに過ごしました。

浜松医科大学の同僚に支えられ、研究以外でも充実した生活を送ることができました。浜松医科大学の教職員と事務局のスタッフは本当に親切で協力的で、私は安心で快適な生活をすることができました。私を支えてくれた講座のスタッフや教授の方々に、感謝の気持ちを表現するには言葉だけでは足りません。浜松医科大学の同僚は人生を最も価値のある実りあるものにしてくれました。2017 年から 2022 年まで浜松医科大学で充実した研究生活を終え、2021 年の 3 月に博士号を取得しました。

Dr. Nazmul Haque Kallol(左)と。2021 年 3 月浜松医科大学学位記授与式に出席。

Attending HUSM graduation ceremony in March 2021 with Dr. Nazmul Haque Kallol

A Journey from Bangladesh to Japan: Excellence in research Life in HUSM

I was a graduate from Bangladesh. I landed at Nagoya International Airport on April 25, 2017, on my first visit to Japan, with the aspiration of doing research on elucidating the pathological mechanisms of human disorders. After arriving at the Hamamatsu Nishi interchange bus stop, I met my supervisor, Professor Dr. Hirotomo Saitsu, head of the Biochemistry department at HUSM, who was waiting to receive me. I was surprised, and his simplicity touched my heart. I felt respectful toward Japan and the Japanese. I felt at home, as if my guardian and supervisor of my future studies were with me.

I joined HUSM on April 26, 2017, and was welcomed and introduced at the department of biochemistry. I started a journey through learning and research in the university's laboratories, libraries, and animal experiment house, being supported by a group of experts. I was fortunate to have Dr. Kazushi Aoto, an assistant professor at the department at the time, as my research mentor. We started researching slowly and steadily. As I was the first PhD student for Prof. Saitsu, he took great care and affection to teach me research techniques and guide me on how to think about research individually. I was really lucky to learn directly from him. We spent most of the time together brainstorming new ideas and working through research and paper publications.

Aside from research, life was excellent, supported by other colleagues in HUSM. The academic and secretariat staff of HUSM were really helpful and supportive, making my life in HUSM really easy and comfortable. It would take endless words to express my gratitude and thankfulness to all the supporting staff and professors of the department. My colleagues at HUSM made life most worthy and yielding. At the end of a satisfying work year from 2017 to 2022 in HUSM, I received my PhD award in March 2021.

2021 年浜松医科大学のバングラデシュ人仲間との交流会（右から４人目が私）。

Bangladeshi communities at HUSM were arranging a get-together program in 2021.

日本での生活：素晴らしい経験

私は妻の Ruksana Yesmin と同じ目的をもって日本に来ました。それは、桜の季節に研究者になることです。満開の桜の美しさは天国のような気分にさせてくれます。降り積もる雪に覆われた富士山が丘陵から顔をのぞかせる様子は、未知の心地よさでいつも私の心を魅了しています。富士山の頂上に登ったときには、美しい景色を見られたことに感謝しました。私たちは日本人の友人とともに、花火や生け花、自らの浴衣作りなどを体験して楽しみ、忘れられない思い出になりました。また、浜松医科大学や医化学講座の同僚が企画した新年会や忘年会、そして数々のスポーツや旅行イベントなども忘れることはできません。

2021 年、自分たちで作った浴衣を着て花火大会へ。

We were attending the Hanabi festival in 2018 wearing Yukata dresses that we made ourselves.

浜松医科大学にはバングラデシュ人の仲間がたくさんいたことも幸運でした。私たちは国際交流会館で、同じ国の仲間同士でよく集まりを開いていました。浜松医科大学での生活はこれらのおかげでとても楽しく充実したものになりました。私も妻も浜松医科大学で博士号を取得できたことはすばらしい喜びであり、私たちの将来のキャリアにとって励みになります。一番興奮したのは 2023 年、私たちに小さな男の子（Ridwan Baariq）が誕生したことです。日本での私たちの幸せがさらに満ち溢れたものになりました。大切な思い出をすべて説明することはできませんが、ただ一つ言えるのは日本で過ごした時間は研究と人生の楽しみを満喫できた最高の時間だったということです。ご支援いただいた方々、楽しい思い出を一緒に過ごした方々、すべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2020 年富士山の頂上にて、浜松医科大学のバングラデシュ人の仲間と国旗を掲げて（右から２人目が私）。

We are Bangladeshi students at HUSM, reaching the top of Mount Fuji and holding our national flag in 2020.

現在の役職と仕事

2021 年に浜松医科大学で博士号を取得した後、さらに 1 年間特任研究員として才津教授の研究室で研究を続けました。その後、2022 年の 11 月に、沖縄科学技術大学院大学 (OIST) の博士研究員として着任しました。OIST のマイティンガー先生の研究室で、細胞とがん生物学、特に細胞増殖を制御しゲノム安定性を維持するメカニズムに焦点を当てた研究をしています。

浜松医科大学から得た経験と専門知識は、私の人生とキャリアに光を当てると信じています。最後に、私が研究者として、そして良き人間になれるようサポートしてくださった浜松医科大学に感謝申し上げます。

2023 年沖縄科学技術大学院大学にて私たちの小さな家族と。

Our little family at the Okinawa Institute of Science and Technology campus in 2023

Life in Japan: The golden chapter

I come to Japan with my wife (Ruksana Yesmin) with the same objective in mind: to be a researcher during Sakura season. The beauty of blossoming cherries gives me a heavenly feeling. Mountain Fuji, covered by falling snow, peeping through the hills, has always fascinated my mind with an unknown heart filling. We have claimed the top of Mount Fuji and blessed my eyes with scenic beauty. We have experienced and enjoyed Hanabi, Ikebana, and making yukata dresses by ourselves with our Japanese friends, making the memories unforgettable. I also cannot forget shinnenkai, bounenkai, and a number of sports and tour events organized by HUSM or my colleagues in the department of biochemistry.

妻と生け花を体験。

Experience of Ikebana with my wife

We were lucky that we had a huge Bangladeshi family at HUSM. We have arranged and attended a lot of get-togethers in the HUSM international dormitory with our country fellows, which has made our lives in HUSM so enjoyable and satisfying. Both me and my wife were getting PhD degrees from HUSM, which gives us immense pleasure and is encouraging for our future carrier. The most exciting part was that, in 2023, our little boy (Ridwan Baariq) was born in Japan, which gave us more fullness of happiness in Japan. It is impossible to describe all those treasured memories, but I can only say that my time in Japan was my best time with study and life enjoyment. Thank you so much to all concerned for your support and being with us for a sweet memory.

My current position and work

After finishing my PhD degree from HUSM in 2021. I then continued the research as a specially appointed researcher for another year in Prof. Saitsu's lab. After that, I joined as a postdoctoral researcher at the Okinawa Institute of Science and Technology in November 2022. Here in Dr. Meitinger's lab, I am studying cell and cancer biology with a focus on mechanisms that control cell proliferation and maintain genome stability.

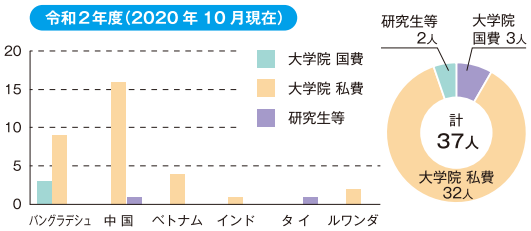
I believe the experience and expertise I have gained from HUSM will shine a light on my life and career. Finally, I say thanks to HUSM for supporting me in becoming a researcher and a good human being.

国際交流概況

外国人留学生数

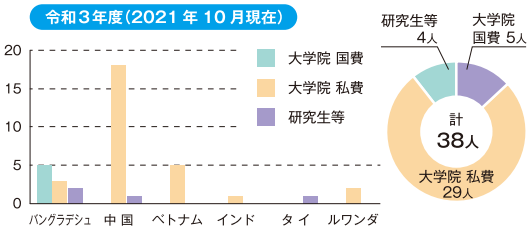
■令和２年度（2020 年 10 月現在）

国　名	学　部		大学院		研究生等	計
	国　費	私　費	国　費	私　費		
バングラデシュ			3	9		12
中　国				16	1	17
ベトナム				4		4
インド				1		1
タ　イ					1	1
ルワンダ				2		2
計	0	0	3	32	2	37



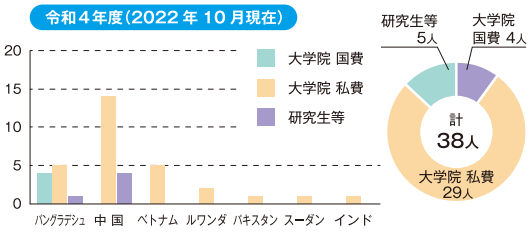
■令和３年度（2021 年 10 月現在）

国　名	学　部		大学院		研究生等	計
	国　費	私　費	国　費	私　費		
バングラデシュ			5	3	2	10
中　国				18	1	19
ベトナム				5		5
インド				1		1
タ　イ					1	1
ルワンダ				2		2
計	0	0	5	29	4	38



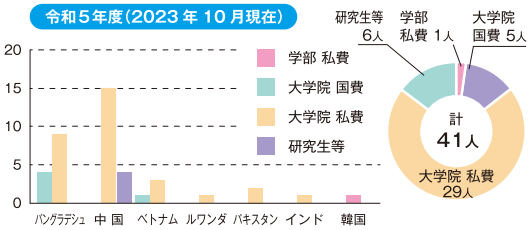
■令和４年度（2022 年 10 月現在）

国　名	学　部		大学院		研究生等	計
	国　費	私　費	国　費	私　費		
バングラデシュ			4	5	1	10
中　国				14	4	18
ベトナム				5		5
ルワンダ				2		2
パキスタン				1		1
スーダン				1		1
インド				1		1
計	0	0	4	29	5	38



■令和５年度（2023 年 10 月現在）

国　名	学　部		大学院		研究生等	計
	国　費	私　費	国　費	私　費		
バングラデシュ			4	7	1	12
中　国				15	4	19
ベトナム			1	3	1	5
ルワンダ				1		1
パキスタン				2		2
インド				1		1
韓国		1				1
計	0	1	5	29	6	41



協定校等及びIFMSAによる交換留学生（受入れ）

国名	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度
オーストリア	1				1
ブルガリア					
カナダ					
中　国	2				
クロアチア	1				
デンマーク					1
フィンランド					1
フランス					
ドイツ	2			1	2
ギリシャ					1
インドネシア	1				
イタリア					
マルタ					
ノルウェー					
オマーン					
パキスタン					1
ポーランド	8				1
韓　国	4			3	(3) *1
ロシア	1				
スペイン					1
スウェーデン	1				
スイス					
タ　イ	6				
イギリス					
アメリカ					
台　湾					9
合　計	27	0	0	4	9(12)

*1　2024 年 1 月予定

協定校等及びIFMSAによる交換留学生（送出し）

国名	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度
オーストリア					
ブルガリア					
カナダ					
中　国	2				
クロアチア					
デンマーク					1
フィンランド					
フランス					
ドイツ	1				3
ギリシャ					
インドネシア					
イタリア	1				
マルタ	1				
ノルウェー					
オマーン					
パキスタン					
ポーランド	6				4
韓　国					
ロシア					
スペイン					
スウェーデン					
スイス					
タ　イ					
イギリス *1	2	1			1
アメリカ *2	5	2			4 *3
台　湾					1
合計	18	3	0	0	14

*1　イギリス留学者は、医学教育振興財団からの支援
*2　サマーワークショップも含む
*3　内３名サマーワークショップ
(注)サマーワークショップは実施年度、それ以外の留学は単位認定した年度で計上した

【IFMSA について】
IFMSA（International Federation of Medical Students' Associations）（国際医学生連盟）は、WHO（世界保健機関）や WMA（世界　医師会）によって正式に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生 NGO です。「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことを Vision として活動しています。この IFMSA の臨床交換留学プログラムにより、日本の医学生が海外の病院で臨床研修を行うとともに、現地の医学生との交流を通じて相互理解を深めています。また、留学生を受け入れて世界とつながる機会を持つことができます。